



千曲市立 戸倉小学校

ふるさとの魅力 発信！

ふるさと戸倉をもっと深く知ろう！ 知ってもらおう！



ふるさと学習「戸倉学」

戸倉小学校では、2022年度開校150周年を迎えたことをきっかけに、自分たちの住む戸倉の町の歴史や文化への理解を深め、未来へ伝え、残していくことを目指し、ふるさと学習「戸倉学」の取り組みを進めています。

先生たちからなる「ふるさと学習研究会」では、年間計画を作成し、定期的に戸倉の町に出かけてフィールドワークも行っています。

地元の公園に新しい遊具を市に提案

2022年度の6年生は、総合的な学習の時間で戸倉に活気を取りもどそうプロジェクト」と題して、「どうすれば地元で活気が出るのか」を考えてきました。その中で大きな天狗で有名な地元の公園キティパークに、子どもから大人まで遊べる大型アスレチック遊具の設置を千曲市に提案しました。市も賛同し、提案を踏まえて、子どもたちへのアンケートを基に遊具の4つの案を作成しました。

4つの案について子どもたちは「自分が良いと思った提案への意見」「反対の意見」を発表し、1人30秒の「アピールタイム」を使ってプレゼンを行いました。最後はタブレット端末を用いた投票により、多数決で決定。前年に提案した「顔出し写真パネル」に続き、色鮮やかなネットやチェーンなどの仕掛けがたくさんある遊具が設置されることになりました。

南三陸町立戸倉小学校との交流を続けて

東日本大震災の際の支援がきっかけとなり、同じ名前という縁で南三陸町立戸倉小学校との交流が始まりました。2023年度は交流の一環として、戸倉学として活動してきたことを動画にまとめ、南三陸町の6年生にも観てもらおうと動画配信を考えています。

戸倉小学校 HP

<http://www.chikuma-ngn.ed.jp/~togurael/company.html>

福祉教育のポイント

実際に見て・聞いて・体験してみると、私たちの「ふるさと」に関わっている町の人たちとのつながりにも気づかれます。

いろいろな方のお話を聞いてみると、新しい発見があるかもしれません。

飯山市立 常盤小学校

ふるさとの伝統を守りたい

小沼ほうきを多くの人に知ってもらおう



常盤のよさを知って伝えていくふるさと学習

常盤小学校では、地域に出て、人・もの・ことと出会う「ふるさと学習」を積極的に進めています。これまでも5学年が総合的な学習の時間で、『昭和五十八年洪水』に学ぶ』として、地区の方々にインタビューを行い、ふれ合う中で、当時の洪水被害の様子や洪水後も地域に住み続ける方々の思いを肌で感じ、学習を深めました。

伝統的工芸品 小沼ほうきの魅力を発信

飯山市常盤地区の「小沼ほうき」は、芸術的に編み込まれたデザインや長持ちする品質から、2019年に長野県伝統的工芸品に指定されました。しかし、現在では生産者の減少が進んでいます。

豪雪地帯である飯山市では、明治初年からほうきの生産が行われ、冬期間の副業として盛んになりました。昭和20～30年代にはひと冬に3万本以上を生産されていましたが、住宅様式の変化や電化製品の普及により、生産量は著しく減少しました。

現在は、住民グループ「小沼ほうき振興会」が生産販売し、伝承活動に取り組んでいます。スキー場のリフトや旅館などで愛用され、学校の授業でも取り入れられ、地域ぐるみで生産と販売を進めています。

2023年12月、常盤小学校5年生が制作したCM作品は、「第23回 abn・八十二 ふるさとCM大賞 NAGANO」で特別賞（ユーマア賞）を受賞しました。

参考：飯山市「どこでもまかせて！」小沼ほうき【ふるさとCM大賞 NAGANO】
<https://www.youtube.com/watch?v=KmAkWS8qT34> (abn5ch 限定公開)

近隣4校が統合し、城北小学校に

開校135周年目を迎える常盤小学校は、2024年度末をもって閉校し、近隣4校が統合する城北小学校として新たにスタートします。地域では閉校を惜しみつつ、閉校記念事業が進められています。

常盤小学校 HP

<https://tokiwa-elementaryschool-iiyama.jimdofree.com>

福祉教育のポイント

伝統を守ることは、モノづくりだけではなく、伝えてきている人たちの知恵や技、それ以上に、伝えていきたい「思い」も一緒に守っていくこととなります。皆さんの身近なところで未来にむけて守っていききたいものはありますか？